



## INTERVIEW



三郷中学校  
松村 叶和さん(15)

平和記念資料館で自分と同じ世代を始めとした、多くの人が原爆で日常を奪われたことを身をもって感じました。これは授業では感じる事ができない経験でした。また、式典には多くの外国人も参列していて、広島は世界中の人たちが平和への思いを分かち合う場になっていることも知りました。「広島が最初で長崎が最後」となるように唯一の被爆国だから訴えられることがあると思います。今回の学習で感じたことを心に刻み、周りにも伝えることで平和への気持ちを広げていきたいです。



松本大学  
平和創造研究会  
神戸美乃里さん(22)

普段関わる事が少ない中学生との活動は、私たちにとって貴重な経験となりました。年齢が近いことを生かし、一方的な授業のようにならないように心がけました。自分と同じ年頃の人が原爆で亡くなってしまったことを遺品などから知り、自分のことのように考えることから学びを始めました。そして、学習を進めていくうちに、同じ世代だけでなく犠牲になった人や残された遺族にテーマを広げて学ぶ中学生の姿が印象的でした。この気持ちと経験を胸に平和の尊さを多くの人に伝えていって欲しいと思います。

8月5日には、実際に広島を訪れ原爆ドームや平和記念資料館を見学。生徒たちは真剣な表情で写真やメモを取っていました。翌日は平和記念式典に参列。111カ国から約5万人が参列した式典で生徒たちは、世界中の平和を求める思いに触れ、戦争の悲惨さや平和の尊さをかみしめていました。

広島での体験をもとに、8月19日(土)の第2回学習会では、グループ内でそれぞれの学びや気づきを共有し、発表に向けた準備を行いました。学生が各グループのまとめ役となり、生徒の意見を引き出しながら、発表の構想をまとめました。そして、9月2日の平和学習成果発表会で各グループが2カ月間の学びの成果を発表しました。

### 各グループ発表の一部を紹介します

#### 1 班

##### 原爆が人々の生活に与えた影響

原爆の投下が当時の人々の暮らしにどのような影響を与えたのか、資料館での見学をもとにまとめました。想像を超える被害があったことや、教科書だけでは分からない現地での学びを、多くの人に伝えていきたいと発表しました。

#### 2 班

##### 次の戦争を起こさないための私たちの取り組み

平和を作るために自分たちにできることをまとめました。今を生きる私たちが、広島で起こったことを学ぶことや長崎が最後の被爆地になるように努力することの大切さを訴えました。

#### 3 班

##### アメリカ側から見た原爆投下

広島への原爆投下を、アメリカ側の視点から調べ、背景にあった事実や、アメリカでも抗議する動きがあったことなどを紹介しました。学んだことを文化祭でも発表し、平和の大切さを友達と共有したいと話してくれました。

成果発表会の発表資料と参加者の体験文集を市HPでご覧いただけます。また、市内図書館で体験文集や動画資料を閲覧できます。



市HP

ありふれた毎日が  
なくなってしまうように  
未来へ平和をつなぐ

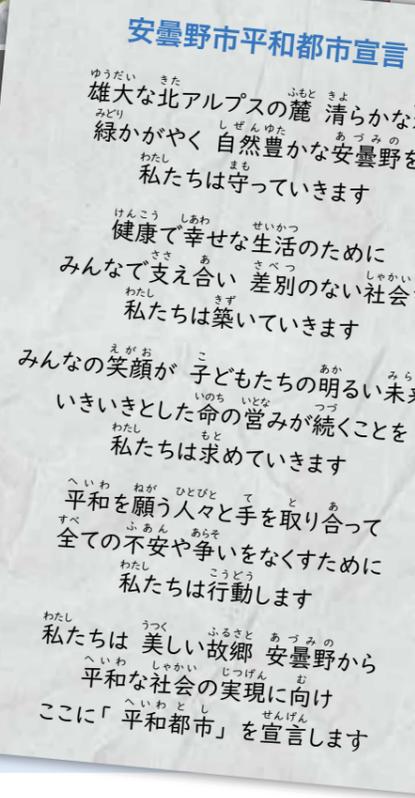


## レポート

# ヒロシマから学ぶ平和の尊さ

中学生が松本大学「平和創造研究会」とともに考える

岡総務課 Tel 71-2408



安曇野市平和都市宣言は、平成24年12月19日に制定されました。この宣言は、次世代を担う小、中学生や高校生から寄せられた意見をもとに、反戦・反核はもとより、飢餓・貧困・いじめなど、身近なところにある不安や争いを無くし、平和な社会を築いていこうという思いや決意をうたっています。市では、この宣言の精神を尊重し、地域に根差した平和事業を行っていきます。